

### 第3回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー 食品についての対話

2012年7月7、8日（土・日）

伊達市役所シルクホール（024-575-1113, <http://www.city.date.fukushima.jp/index.html>）

発起人

国際放射線防護委員会（ICRP）

協力と援助

伊達市、福島県、放射線安全フォーラム、FSAC 福島ステークホルダー調整協議会、  
福島のエートス、福島県立医科大学  
ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部、  
経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、  
ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局

同時通訳

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

#### 経過と目的

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRPは、2011年秋に会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響を受けた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

第一回のダイアログセミナーは、2011年11月26日と27日の両日にわたり、福島県庁の会議室で開催された。ここで参加者は、安全な生活条件と高い品質の作物の生産、そして外部地域との連帯を介した地域コミュニティの再生の重要性を確認した。さらに参加者は、人々が事故の状況を理解しさらに評価することを通じて影響を受けた地域での生活からうける放射線被曝を低減するために必要な放射線防護の文化を醸成することの重要性を確認した。そして参加者は、日本政府と国際組織に、以下を訴えた。

- 一 地域と国内のステークホルダーを糾合し、生活の状況の改善に共同して当たることを追求する。
- 一 国際的な経験を生かして、種々のプロジェクトを立ち上げるための条件と方法を明らかにするため、ダイアログを継続する。

第二回の伊達ダイアログセミナーは、2012年2月25日と26日の両日にわたり、伊達市保原市民センターと保原スカイパレスで開催された。この会合の目的は、福島放射線の状況の改善について議論し、その障害になる問題点を明らかにし、市民の生活を改善する道をさぐることであった。参加者は、人々の心の問題、とりわけ住民が尊厳を保ちうることの重要性、そして地域、国内、国際を通じた連帯を強調した。参加者は、住民がどこでどのように被ばくしたかなどを人々が知るため、放射線の状況についてさらに詳細な情報を必要としていることを、認識した。そして、参加者は以下の勧告を採用した。

- 一 地域のコミュニティと住民の生活条件を改善するためのプロジェクトを支援する方策を推し進める。
- 一 回復に向けての活動に関する決定には、地域の生活からえられた知識に基づいた優先順位を反映することへの住民の期待を支援し、さらに現時点および将来における住民の利益を考慮する。
- 一 相互理解と協力を促進し、生活の状況を改善するための活動の評価を共有するため、ダイアログを継続する。

今回の第三回ダイアログセミナーの目的は、2012年夏の始めにおける放射線状況を論じ、これを改善するためにステークホルダーの方々の最近の経験を共有することにある。とりわけ、非常に困難な問題である食品の汚染に注目し、その複雑な状況を理解し、異なる、また時には対立する利害関係をもつステークホルダーとともに、状況改善の道を探る。

#### 会合の進め方

同時通訳：英語と日本語の同時通訳は、イヤホンで聞くことができます。

2種類のセッション

午前のセッション：共有すべき事実関係についての発表です。

午後のセッション：食品についての関係者の対話を行います。

#### 会合関連サイト

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエートス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

## プログラム

### 第1日 7月7日(土)

会場：参加者、オブザーバー、傍聴者（100名を予定）

全体司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎

#### 10:00-10:30 開会

仁志田伊達市長、ジャック・ロシヤール氏による歓迎の挨拶  
国内・海外参加者による自己紹介（各自1分で名前、専門、経験）

#### 10:30-13:00 セッション1：過去の教訓と現状（途中で15分の休憩）

ノルウェーにおける人々のセシウム汚染：ハーバード・ソーリング（ノルウェー）、  
（20分）

冷戦時代における日本人のセシウムレベル：赤羽恵一（放医研）、（15分）

陰膳測定による食品のセシウム：佐藤理（コープ福島）、（15分）

WBCによる食品由来の内部被ばく：宮崎真（福島医科大学）、（15分）

ベラルーシにおける住民参加による線量測定と健康影響調査—ベラルーシでの  
経験：F. ロリンジャー（フランス）、（20分）

伊達市における稲の試験作付—水田生態系における放射性セシウムの動き：

根本圭介（東京大学）（20分）

福島原発事故に由来する住民の線量：堀岡 伸彦（原子力災害対策本部）、（15分）

伊達市中心のケア事業からの中間報告：半谷輝己（FSAC）、（15分）

#### 13:00-14:00 昼食

#### 14:00-15:30 セッション2：食品汚染の改善にむけてのステークホルダーの対話（1）

司会と書記：ジャック・ロシヤール、デボラ・オーグトン、テリー・シュナイダー  
セッションのあり方：

下線のパネル参加者（15名）は、意見を8分以内で発表

他のパネル参加者（4名）とオブザーバーは、自由討論に参加

パネル討論参加者（15/20）

JA+伊達農家：数又清市（JA 伊達みらい）+清野正孝（伊達果樹・米農家）  
大学：根本圭介（東京大学）

JA：佐藤利松（JA 新ふくしま常務理事）

飯舘農家：菅野宗夫+菅野クニ

コープ福島：佐藤理+野中俊吉

食品流通：富岡伸一（サントリービジネスエキスパート株式会社）

NPO：安東量子（福島のエートス）

NPO：半谷輝己（福島ステークホルダー調整協議会）

NPO：鈴木寿（メックス）

梁川小学校：宍戸正幸（校長）+浅見明美+宇野典子+大槻智子（PTA）

首都圏消費者：佐藤多鶴子+秋山宏次郎

報道：早川正也（福島民報）＋菊池克彦（福島民友）

**15:30 - 16:00** コーヒーブレーク

**16:00 - 17:30** セッション2のつづき

**18:00-20:00:** レセプション 伊達みらいホール

**第2日 7月8日（日）**

**09:15-9:40 開会**

ジャック・ロシヤール氏による新規参加者歓迎  
新規参加者の自己紹介（各1分で名前、専門、経験）  
第1日目のまとめの紹介

**09:40-12:00 セッション3：食品汚染についての問題点と対応**（途中で15分の休憩）  
ノルウエーにおける人々の日常生活管理：ラブランス・スクテルード（ノルウエー）、  
（20分）

学校における放射線防護の文化—ベラルーシの教訓：テリー・シュナイダー  
（フランス）、（20分）

JA 伊達みらいにおけるセシウムレベル低減の取り組み：数又清市（JA 伊達みらい）、  
（15分）

JA 新福島におけるセシウムレベル低減への取り組み：佐藤利松（JA 新ふくしま）  
（15分）

流通における放射性セシウムとその対応：近澤靖英（イオンリテール）（15分）

セシウム問題における一般消費者の動向：阿南久（消団連）（15分）

食品問題の解決に向けて：多田順一郎（放射線安全フォーラム）（15分）

福島のエートス活動：安東量子（福島のエートス）（15分）

**12:00 - 13:00: 昼食**

**13:00 - 15:30 セッション4：食品汚染の改善にむけてのステークホルダーの対話  
（2）**

司会と書記：ジャック・ロシヤール、デボラ・オーグトン、テリー・シュナイダー  
セッションのあり方：

下線のパネル参加者は（14名）、8分で意見発表

他のパネル参加者（5名）とオブザーバーは、自由討論に参加

パネル討論参加者（13／20）

JA：数又清市（JA 伊達みらい）

JA：佐藤利松（JA 新ふくしま）

飯舘農家：菅野クニ

コープ：佐藤理+野中俊吉（コープ福島）

流通：近澤靖英（イオンリテール）

食品流通：富岡伸一（サントリービジネスエキスパート株式会社）

NPO：安東量子（いわき 福島のエートス）

NPO：鈴木寿（南相馬 メックス）

富成小学校関連：勝見五月（前校長）+原田徳子+古関純子+菅野純子（PTA）

首都圏消費者：佐藤多鶴子+秋山宏次郎+山本司真

全国消費者：阿南久（全国消費者団体連絡会）

報道：早川正也（福島民報）+菊池克彦（福島民友）

**15:30 – 16:00** コーヒーブレイク

**16:00 – 17:00** セッション5：前進にむけての総合討論

**17:00 -17:30:** まとめと勧告

**17:30:** 閉会のあいさつ

第3回ダイアログとその先に見えるもの：テッド・ラズ（OECD/NEA）

閉会の挨拶：ジャック・ロシヤール